

交通 評論



8月11日から15日まで米
国コロラド州を訪ねた。ロ
ッキー山中のsteamボ
トスプリングスで行われた
「山岳の大気化学・物理シ
ンポジウム」に参加するた
めである。富士山測候所を
気象庁から借り受けて観測
研究を行っている私たちN
POの仕事を紹介した。

初日のハイライトはスト
ームピークラボ(SPL、
日本語にすると「嵐が丘実
験室」とでもなるだろう
か)の見学であった。32
20層の高さとこの名前か
ら、寒さ対策には万全を期
したが、幸い好天に恵まれ
雨具の出番はなかった。シ
ンポジウム会場のホテルは
海拔2000m付近のスキ
ーリゾートで、夏でもリフ
トが動いている。
シンポジウムの運営委員

長ガネット・ハラー博
士の運転する車に私た
ち3名の日本人研究者
は便乗して約1時間で
到着。富士山の剣ヶ峯
よりはぐっと穏やかな「嵐
が丘」は美しい山野草に囲
まれた丘で、そこに立つ木
造2階建てのしっかりした
研究施設がSPLであっ
た。

1979年
にコロラド州
立大学の人工
降雪研究施設
として開所
し、スキー場
との連携で発
展してきた。1989年州
立大学から砂漠研究所(D
RI)の管轄に移行。数回
の移設を経て現在の場所に
1995年に建設され、2
006年にはガネットさん
が所長に任命された。

その後、トイレや宿泊施
設の拡充などに加えて、2
010年には米国防科学財団
の特別資金によってクリー
ンルームなどを含む生物・
化学実験室が増設され、現
在の姿になったとのことだ
る。

7年間」を報告したが、前
日の見学の印象が残ってい
て、つい苦労話に重点が行
ってしまった。
SPLについては、観測
という地味な仕事にこれだ
けの潤沢な資金が使われる
この国の豊かさと、若い女
性がそのトップで活躍して
いることに羨望(せんぼつ)
の念を禁じえなかった。

NHKの土
曜ドラマとし
て現在放送中
の「芙蓉の人」
は明治28年に
私財を投じて
富士山頂に観
測所を作り、山岳観測の有
用性を自ら証明した野中至
とそれを助けた千代子夫人
の感動的な物語である。
気象庁が測候所を無人化
した後、私たちNPOによ
る管理では経費のねん出に
苦労を重ねている。何度も
書いたが、三井物産環境基
金などの民間の助成金で辛
うじて維持しており、若い
研究者たちは自腹を切って
観測を続けているのが実情
である。

経済発展するアジア大陸
の風下にある日本は、いま
PM2.5などの越境大気
汚染にさらされている。汚
染の研究には最高の観測地
点として富士山測候所の有
用性は広く認められ始めて
いるが、省庁縦割りの壁は
大きく、公的な援助は皆無
である。

ついでに ついでに ついでに

土器屋 由紀子

上、スキー場であることに
よって冬でも楽に行けるこ
ともメリットである。
2時間程度の見学だった
が、充実した施設とそのデ
ータに圧倒され、参加者の
多くが「うちやましい」
「素晴らしい」を連発して
いた。シンポジウムは次の
日から始まり、私は「NPO
管理による富士山観測の

シンポジウムではSP
Lの他にスイスのユングフラ
ウヨッホ観測所、台湾鹿林
山観測所、スペインのイザ
ナ研究所などがそれぞれ、
国や鉄道会社などのバック
アップを受けた運営の実態
などを話されたが、資金難
で夏の2カ月の観測しかで
きていない富士山の研究者
は肩身が狭かった。GDP
世界第3位のわが国で、観
測などの基礎研究が若い人
たちの熱意だけに任されて
いてよいのだろうか。

（江戸川大学名誉教授）